

2018年7月24日(火)

10:00～17:00
(開場9:30、昼食休憩12:40～13:40)

～財務諸表が読めるようになりたい方のための～

会計の基本がわかる・財務諸表マスター講座

—財務3表のつながりがわかれば、会計は理解できる!—



講師 **國貞 克則氏**

ボナ・ヴィータ コーポレーション代表取締役

1983年東北大学工学部機械工学科卒業、神戸製鋼所入社。海外プラント輸出、人事、企画、海外事業企画に従事。96年米国クレアモント大学ピーター・ドラッカー経営大学院でMBA取得。2001年ボナ・ヴィータ コーポレーションを設立して独立。管理職を対象としたリーダー育成研修、わかりやすく会計の仕組みが理解できる会計研修などが得意分野。著書に『書いてマスター!財務3表・実践ドリル』(日本経済新聞出版社)、『財務3表一理解法』『財務3表図解分析法』『財務3表実践活用法』(以上、朝日新聞出版)、『財務3表』を一体にした勉強法で英文会計も理解できる!『The Trilateral Approach』(ゴマブックス)、『究極のドラッカー』(角川新書)等、訳書に『財務マネジメントの基本と原則』(東洋経済新報社)がある。

会場

日本経済新聞社日経ビル6階「日経・大手町セミナールーム1」
(日経カンファレンス&セミナールーム内)
東京都千代田区大手町1-3-7 TEL 03-3270-0251 (代表)

受講料

34,560円(消費税を含む)

セミナーのねらい

この講座は会計・財務に苦手意識があるが、理解を深めたいと考えている方を対象としています。損益計算書(P/L)貸借対照表(B/S)キャッシュフロー計算書(C/S)の財務3表を1つのセットにし、3表の数字のつながりをひとつひとつ、つかんでいくことにより、財務諸表の仕組みをマスターします。また、会計の理解が浅いと誤解が生じやすいポイントについても丁寧に解説します。

講座の内容をマスターすれば、会計に対するアレルギーが軽減し、財務諸表の数字が何を意味するのか、理解が進みます。同時に管理職業務や会計・財務関連業務を行うための土台づくりができます。

階層・部門を問わず、会計をしっかりと理解し、仕事に活かしたいと考えている方に活用していただきたい講座です。

●プログラム

時間	内容	解説
10:00	◆Session1「なぜ財務諸表が理解できないのか？」 1. 収支報告書を見る感覚で、財務諸表を見ている 2. 財務3表がどのように作られるかが分かっていない 3. 財務3表のつながりが分かっていない	「利益」や「剰余金」という現金があるわけではない。P/LとB/Sが必ずしも現金の動きを表しているのではないことを理解する
10:20	◆Session2「決算書の基礎知識」 1. 損益計算書(P/L) 2. 貸借対照表(B/S) 3. キャッシュフロー計算書(C/S) 4. 複式簿記とは何か	財務3表の基本的な構造を理解する
11:10	◆Session3「財務3表のつながりを理解する」 1. 会社設立 2. 固定資産の取得 3. 現金取引と売掛・買掛 4. 借入と元本・金利の支払い 5. 減価償却・在庫計上 6. 税金の計上と支払	財務諸表の構造や財務分析の比率だけをいくら勉強しても財務諸表は理解できない。財務3表の数字のつながりと、会計のしくみが理解できれば決算書から会社の姿が見えてくる
14:30	◆Session4「純資産の部を理解する」 1. 純資産の部 2. 資本剰余金と利益剰余金 3. 利益準備金と任意積立金	純資産の部と配当の関係、並びに株主資本等変動計算書の内容がわかれば、さらに理解が進む
15:00	◆Session5「財務分析(何を見れば会社の状態が分かるか)」 1. 企業にとって大切な4つの数字 2. キャッシュフロー・マネジメントとは何か 3. C/Sを見れば会社の状態が分かる 4. 経営分析(どこを見れば会社が分かるのか)	財務3表のどこを見れば会社の状態が読めるかが理解できる
17:00	終了	

備考

- 講義の内容は、会計の初心者の方でも問題なく理解できますので、安心してご参加ください。「これまで一度も会計の勉強をしたことがなく、少し不安」という方は、拙著『ストーリーでわかる財務3表超入門』(ダイヤモンド社)を事前にお読みいただくと、理解しやすくなると思います。
- 電卓をご持参ください。

ビジネス英語・語学

エグゼクティブ

技術と経営

経営・マネジメント

コミュニケーション

マーケティング・企画開発

会計・財務分析

戦略思考・問題解決

人事・労務・総務

ビジネス法律

ビジネス新潮流

ビジネス英語・語学

エグゼクティブ

技術と経営

経営・マネジメント

コミュニケーション

マーケティング・企画開発

会計・財務分析

戦略思考・問題解決

人事・労務・総務

ビジネス法律

ビジネス新潮流